

## 質問書に対する回答

(工事名) 道東自動車道 狩勝第二トンネル東工事

### 質問事項と回答

番号	質問事項	回 答
1	項目番号12-(11) 裏面排水工Bについて、設計図（トンネル工）48/88の裏面排水工材料表に記載が無く、材料の形状寸法が分かりませんのでご教示ください。	排水工詳細図（4）に裏面排水工詳細を追加します。
2	トンネル避難連絡坑部の覆工で使用する型わくT (S)について、移動・据付[TNL-42R]だけでなく、型わくの組立・撤去[TNL-41R]も計上しているのでしょうか、ご教示ください。	積算に関する質問についてはお答えできません。
3	トンネル坑口付近に設置する防音扉の移設回数について、設計図（参考図）16/17から設置撤去は2回（覆工施工前、覆工施工後）と考えて良いでしょうか。	貴社の施工計画に基づきご判断ください。

番号	質問事項	回 答																										
4	<p>設計図（参考図）9/17 工事工程表の平均月進にCⅡ-b(H)-2-Bの月当り進行長が60m/月とありますが、弊社が令和6年度版の土木工事積算基準に従ってサイクルタイムを計算したところ計Q（全体のサイクルタイム）が343分となり、10/7付の質問書に対する回答番号1の質問者と同様に、月当り進行長が62m/月となりました。</p> <p>弊社のサイクルタイムの内訳を記載しますので、御社と異なる箇所をご指摘頂けないでしょうか。</p> <table border="0" data-bbox="257 454 1108 877"> <tr><td>せん孔時間</td><td>57分</td></tr> <tr><td>装薬、爆破、換気</td><td>50分</td></tr> <tr><td>こそく、浮石除去</td><td>25分</td></tr> <tr><td>ずり搬出</td><td>47分</td></tr> <tr><td>吹付け</td><td>34分</td></tr> <tr><td>鏡吹付け</td><td>12分</td></tr> <tr><td>支保工建込み</td><td>20分</td></tr> <tr><td>ロックボルト打設</td><td>46分</td></tr> <tr><td>フォアポーリング打設</td><td>0分</td></tr> <tr><td>金網</td><td>0分</td></tr> <tr><td>損失、その他</td><td>52分</td></tr> <tr><td>計（全体のサイクルタイム）</td><td>343分</td></tr> <tr><td>1ヶ月当り進行長</td><td>62m（=420×1.2×2×21/343）</td></tr> </table>	せん孔時間	57分	装薬、爆破、換気	50分	こそく、浮石除去	25分	ずり搬出	47分	吹付け	34分	鏡吹付け	12分	支保工建込み	20分	ロックボルト打設	46分	フォアポーリング打設	0分	金網	0分	損失、その他	52分	計（全体のサイクルタイム）	343分	1ヶ月当り進行長	62m（=420×1.2×2×21/343）	CⅡ-b(H)-2-Bの月進は、62m/月が正となります。
せん孔時間	57分																											
装薬、爆破、換気	50分																											
こそく、浮石除去	25分																											
ずり搬出	47分																											
吹付け	34分																											
鏡吹付け	12分																											
支保工建込み	20分																											
ロックボルト打設	46分																											
フォアポーリング打設	0分																											
金網	0分																											
損失、その他	52分																											
計（全体のサイクルタイム）	343分																											
1ヶ月当り進行長	62m（=420×1.2×2×21/343）																											
5	<p>特記仕様書29-5-3ずり処理工のうち、ずり処理工A1の区分内容について、「掘削切羽から本線盛土箇所までの運搬」とあることから直接坑外の盛土ヤードに搬出するものと読み取れますが、「坑外ずり積替場での積込み」とも併記されているため直接搬出しないとも読み取れます。</p> <p>区分内容の解釈は、御社の土木工事積算基準19-21頁に記載されている通り、「直接坑外の盛土ヤードに搬出する方式を標準と」し、必要に応じて積替えを行うものと考えて良いでしょうか。</p>	<p>ずり処理工A1の区分内容については、特記仕様書「29-5-3ずり処理工」に記載のとおりとなります。</p> <p>なお、積算に関する質問についてはお答えできません。</p>																										
6	<p>10/9付で訂正された数量明細表において、客土掘削土砂A1の数量が捨土掘削土砂A1の数量に土量変化率C=0.87を掛けた値になっていますが、客土掘削土砂A1の6942.5m<sup>3</sup>は地山土量では7979.9m<sup>3</sup>と考えて見積もりするという考えでよろしいでしょうか。</p>	積算に関する質問についてはお答えできません。																										

番号	質問事項	回 答
7	上記に関連して、特記仕様書29-2-1-(1)では捨土掘削土砂A1の区分内容で運搬、敷均しまでになっていますが、土量変化率C=0.87を掛けているということは締固めまで行うということでしょうか。	特記仕様書29-2-1 (1) に記載のとおりです。
8	【質問と回答⑤】番号10にて、鏡吹付コンクリートを施工する支保パターンについては直送ではなく積み替え方式、との回答でしたが、割掛の工事用機械運搬費で25tダンプトラックが5台になっていることから、土木工事積算基準でダンプトラック所要台数が4台を超える場合に相当するため、鏡吹付の有無にかかわらず全て積み替え方式となるものと考えてよろしいでしょうか。	積算に関する質問についてはお答えできません。
9	上記に関連して、鏡吹付のない支保パターンは直送とするならば、ずり処理工B1については広内林道を25tダンプトラックで走行できるものと考えてよろしいでしょうか。 あるいはずり処理工B1に限って全て積み替え方式とする計画でしょうか。	特記仕様書29-5-3に記載のとおりです。
10	令和6年10月7日掲載の交付図書の訂正について 正誤表のうち金抜設計書単価表で、鋼アーチ支保工 (DIIIa-3) が75基、路盤排水工 (横断排水工B) が242m、路盤排水工 (横断排水工C) が64mに変更されていますが、それぞれ数量明細表は変更されていません。 どちらの数量が正しいのでしょうか。	金抜設計書が正となります。
11	設計図 (トンネル工) 支保パターン図の鏡吹付けコンクリート (上半のみ) の数量は、積算基準のサイクルタイムに記載されているA3 (掘削断面積 上半断面 余掘含む) と解釈してよろしいでしょうか。	ご認識の通りです。
12	上記について、支保パターン図 (3) CII-a (H)-2-B 断面の場合では、A3 (掘削断面積 上半断面 余掘含む) の計算値は、56.172m <sup>2</sup> となりますが、図示されている54.023m <sup>2</sup> はどのような数値でしょうか。 根拠をご教示願います。	令和6年度版土木工事積算基準 第19編のサイクルタイムに基づき算出した鏡吹付コンクリートの面積となります。
13	I期線側既設覆工の処分費 (分別・運搬・処分) は、どの単価項目に含むのでしょうか。	避難連絡坑補強費に含みます。

番号	質問事項	回 答
14	<p>避難連絡坑補強費に既設覆工の撤去費とありますが、撤去の内容は下記のいずれでしょうか。</p> <p>①施工費 ②施工費＋処分費 ③処分費 ④その他（この場合は、内容をご教示願います）</p>	撤去に要する費用及び処分費を含みます。
15	<p>避難連絡坑施工時に吹付コンクリートの取壊しが発生しますが、どの単価項目に含むのでしょうか。</p>	避難連絡坑補強費に含まれます。
16	<p>狩勝第二トンネル詳細設計より、トンネル掘削CⅠ-B-S、CⅡ-B-Sはそれぞれ106.9m<sup>3</sup>、107.8m<sup>3</sup>と思われます。 数量明細書の数量120.3m<sup>3</sup>、123.8m<sup>3</sup>の根拠をご教示願います。</p>	設計図書に基づきお考え下さい。
17	<p>月当りの進行長について 「CⅡ-b-2-B」の月当りの進行長60m/月とありますが、土木工事積算基準（令和6年度版）のP19-12で計算しますと、せん孔時間：57min、装薬・爆破・換気：50min、こそく・浮石除去：25min、ずり搬出：47min、吹付け：34min、鏡吹付け：12min、支保工建込：20min、ロックボルト打設：46min、損失・その他：52min、計Q：343min、1か月当り進行：62m/月となります。 60m/月の根拠につきましてご教示願います。</p>	CⅡ-b(H)-2-Bの月進は、62m/月が正となります。
18	<p>【金抜設計書 番号78、設計図(トンネル工)57/88】 金抜設計書 番号78 計測工C 振動測定の数量が「3」から「2」に変更されましたが、これに伴い、設計図(トンネル工)57/88 計測工割付図(2) STA. 1097+70の振動測定(○マーク)が削除となり、数量表の3台が2台になるという理解で良いですか。</p>	ご認識の通りです。
19	<p>【数量明細表 番号1 客土掘削 土砂A1】 客土掘削 土砂A1の数量が、捨土掘削 土砂A1の数量7,979.9m<sup>3</sup>に土量換算係数C=0.87を掛けた6,942.5m<sup>3</sup>に変更されましたが、これに伴い、捨土掘削 土砂A1の特記条件に「締固め」が追加されますか。 捨土掘削 土砂A1の積算条件は「敷均しまで(締固めなし)」であるため、新得ずり置場の土砂は地山に近い状態で仮置きされていると思います。 このため、捨土A1の条件に「締固め」が追加されない場合には、客土A1の数量は7,979.9m<sup>3</sup>になると考えます。</p>	特記仕様書29-2-1 (1) に記載のとおりです。

番号	質問事項	回 答
20	<p>【金抜設計書 番号85、設計図(トンネル工)45~47, 51/88】</p> <p>路盤排水工 横断排水工Bの数量が242mに変更されましたが、排水系統図(1)~(3)の平面図に示される横断排水工(破線)の本数と、排水工詳細図の表に示される排水管1ヶ所当りの延長から計算される数量は250.4mとなり異なります。どちらが正しい数量ですか。</p> <p>横断排水管の間隔は基本50mと考え、排水系統図(1) C I -B-L(H)の起点側29mの位置にある排水管(破線)を削除すれば、延長は241.6mとなり金抜設計書の数量と一致します。</p>	<p>排水工詳細図に示す横断排水工材料表に誤りがありましたので、公告図書を後日訂正致します。</p>
21	<p>【設計図(トンネル工)51/88】</p> <p>排水工詳細図 横断排水工材料表 C I -a(H)-1-B 1ヶ所当りの掘削数量が1.702m<sup>3</sup>になっていますが、数量計算書の掘削数量は1.072m<sup>3</sup>です。どちらが正しい数量ですか。</p>	<p>掘削数量は1.072m<sup>3</sup>が正となります。</p>